

2026年4月23日

## 国際ニッケル研究会（INSG）2026年4月プレスリリース

日本鉱業協会 企画調査部

2026年の春季国際ニッケル研究会（INSG）総会は、2026年4月20日と21日にポルトガル共和国リスボンで開催され、加盟国の政府および業界代表、オブザーバー、および複数の国際機関が出席し、ニッケル市場の最新動向について幅広く議論した。

4月22日付けで発表されたプレスリリースは次の通り。

### 1. 2026年のニッケル市場動向に関する考察

2025年の世界経済成長は、主要経済国における技術関連投資と財政・金融政策措置に支えられ、堅調に推移した。しかし、2026年2月下旬に中東で勃発した紛争は、エネルギー市場とインフレ期待に重くのしかかり、2026年の世界経済成長は減速すると予測されている。金属市場への影響（生産と最終需要の両面）はまだ明らかになっておらず、その全容はまだ評価されていない。

世界最大のニッケル生産国であるインドネシアは、鉱業部門をより厳しく規制するため、2026年に新たな措置を導入した。2026年のニッケル鉱石採掘割当量（RKAB）は、2025年よりも大幅に低い水準に設定されている。ただし、割当量は上方修正される可能性があり、許可保有者は政府の需給評価に基づき、1件の修正申請を提出できる。さらに、4月15日に発効した新たな基準価格メカニズム（HPM）では、すべての鉱石グレードの基準価格が引き上げられ、コバルト、鉄、クロムが初めて価格決定方式に組み込まれた。

ステンレス鋼業界は2025年に成長を記録し、2026年にはさらに拡大すると予測されている。一方、バッテリー市場におけるニッケルの役割は予想よりも緩やかに拡大しており、リン酸鉄リチウム系電池がより大きな市場シェアを獲得し、プラグインハイブリッド車の需要が完全電気自動車の需要を上回っている。

世界の一次ニッケル生産量は、2023年に343万9000トン、2024年に358万9000トン、2025年に388万トンとなり、2026年には371万5000トンに達すると予測されている。これらの推定値には、生産中断の可能性に対する調整係数は含まれていない。

世界の一次ニッケル使用量は、2023年に326万5000トン、2024年に347万3000トン、2025年に359万6000トンであり、2026年には374万7000トンに増加すると予測されている。

したがって、市場バランスは、2023年には175ktの余剰、2024年には116ktの余剰、2025年には283ktの余剰、そして2026年には32Ktの不足となる。

INSGは、これらの数値にはある程度の不確実性があることを認めており、特にインドネシアの生産水準と中東紛争の進展する影響に関してその傾向が顕著である。

## 2. 統計委員会

統計委員会は、プレゼンテーションと市場に関する議論を通じて、作業計画策定のための貴重な意見を得た。

北京安泰科情報有限公司ニッケル・コバルト・リチウム部門副部長、中国非鉄金属工業協会ニッケル・コバルト支部（NCB-CNIA）副事務局長の白萌氏が、「中国ニッケル産業2025年レビューと2026年の展望」と題したプレゼンテーションを行った。

## 3. 業界諮問委員会

世界のニッケル生産、利用、リサイクル業界の代表者で構成された業界諮問委員会も、グループに貴重な情報を提供した。

プロジェクト・ブルーのリサーチ・ディレクターであるロブ・バレル博士と、ニッケル担当シニア・アナリストのリンファイ・ニ氏は、INSGがプロジェクト・ブルーに委託した電池中のニッケルに関する研究の概要を説明した。

CRUのニッケル市場サービス、分析・予測担当主席コンサルタントであるニキル・シャー氏が、ステンレス鋼とその原材料についてプレゼンテーションを行った。

WisdomTreeの欧州商品・マクロ経済調査責任者であるニテシュ・シャー氏は、鉱物・金属セクターにおける価値創造について講演を行った。

## 4. 環境経済委員会

環境経済委員会での議論はニッケルの持続可能な生産を中心に展開され、以下の発表が行われた。

ニッケル協会の公共政策・持続可能性担当ディレクターであるマーク・ミストリー博士は、「ニッケル製品のカーボンフットプリントと、世界的な市場アクセスにおけるその重要性の高まり」と題したプレゼンテーションを行った。

OECDの鉱物・鉱業政策アナリストであるカシリエル・ガリック氏は、OECDの責任ある調達に関する取り組みについて聴衆に説明した。

ギガ・メタルズ社の戦略アドバイザーであるライル・トリッテン氏が、同社のターンアゲイン・プロジェクトの概要について説明した。

#### 5. 合同学習グループセミナー

国際ニッケル研究グループ (INSG)、国際鉛亜鉛研究グループ (ILZSG)、国際銅研究グループ (ICSG) は、2026年4月22日に「鉱業および金属産業におけるエネルギーの入手可能性、価格、および十分性」をテーマとした合同セミナーを共同で開催した。

#### 6. INSG の次回会合の日程

次回の会合は、2026年10月12日の週に予定されている。

講演者によるプレゼンテーション資料は、INSG ウェブサイトの会員専用エリアに掲載される。詳細については、事務局 ([insg@insg.org](mailto:insg@insg.org)) までお問い合わせいただくか、ウェブサイト ([www.insg.org](http://www.insg.org)) をご覧ください。

以 上